

2011 - 2012 スペシャルクリニック
第3回

開催日：2012年3月3日(土)

会場：大阪商業大学 521教室

講師：大阪商業大学バスケットボール部監督 樋口 泰 氏

テーマ：世界のバスケットボールを知るコーチから学ぼう！

ゲーム分析が実際のゲーム運営にもたらすもの

ゲーム分析 ・相手チーム及び自チームを知ることによってゲームプランを計画すること
ボールの所有に関する基本情報

- ・ 攻撃回数
- ・ 攻撃効率
- ・ ターンオーバー (TO)
- ・ オフェンスリバウンド (OR)
- ・ ディフェンスリバウンド (DR)
- ・ ファストブレイク (FB)
- ・ セットオフェンス (SO)
- ・ フィールドゴール (FG%: 3P、2P) 成功率
- ・ フリースロー (FT%) 成功率

分析の種類・・・データ分析とVTR分析とに分けられる

ゲーム分析ソフト

- ・ サイバースポーツ
- ・ XOS
- ・ スポーツコード

ソフトを使い数値データを示しチーム分析を行う

樋口氏は、自らのチームでの実践例を用いて講義を行なわれた。リーグ戦でのゲームを自チームと相手チームの両面から分析するため、上記のボールに関する基本情報を集め、ハーフタイムにチェックする。そして後半に向け、相手チームの情報をキャッチすることと、ゲームが終わった後も勝敗に関する要素を分析することを毎試合確認している。その作業が終われば、次の対戦相手の分析を行うために、VTRを見てミーティングで相手チームの特徴を選手に伝える。

ビデオカメラでのゲームの撮影は容易になったが、分析ソフトについては金額も高額となり、どのチームにおいても所有できるものではない。そこで、費用を全くかけることなく、ビデオカメラがなくてもこれらの基本情報は手に入るの、各チームオリジナルの分析を行うことも可能である。スコアブックをつけていれば相手チームだけでなく、自チームのスタイルも分析できるとも説明された。時代の変化とともに、自分たちがプレーすることのみを追求するだけでなく、相手にプレーさせないことを事前に把握する情報を持つことが当然となってきた。

また樋口氏は、まず自らのチームの特徴を年度ごとに捉え、練習の内容からゲームへの戦術をアレンジしているとも話されていた。それを踏まえて、チームの目標を具体的に設定し、練習する。戦術としてオフェンスではハーフコートのSOのパターン、エンド、サイドラインからのスローインに関して、ハーフコートゾーンオフェンス、オールコートのプレスオフェンスを持っているか。ディフェンスでは、マンツーマンディフェンスの他にハーフコート、オールコートでのゾーンディフェンス、プレスディフェンスが用意されているか。目標とすることは、設定した1試合の最低得点、最高失点、攻撃回数に対するターンオーバー(TO)の数、フィールドゴール(FG%: 3P、2P)成功率、フリースロー(FT%)成功率が目標数値に達し、ゲームプランを実行できるかである。コーチは自チームの将来をイメージでなくクリエイト(創造)するものとも言われた。

このように、可能な範囲で情報を収集し、分析を行い、自チームの目標達成に生かす方法を丁寧に解説いただいた。ミーティングでVTRによる映像を見せるだけでなく、対戦相手の情報を詳細に記したスカウティングレポートを配布することによって、対戦相手への対策についての選手と監督の共通理解が深まり、ゲームに臨みやすくなると考えられる。

最終的に、対象チームのスカウティングを行い、ゲーム分析をするということは、どれだけ正しい情報を指導者、選手にもたらし、ゲームに勝機を見出せるかということになる。

文責：金光藤蔭高等学校 吉村 浩一